

雪に泣かされたが、枯れ松の処理は順調。そこここで新しい景色も。

ようやく桜の季節がめぐってきた。塩カンのコースもグリーンの緑が濃くなり、本格的なシーズン前の助走の最中にある。この冬はここ数年になく、降雪にたたられた。降雪回数そのものが多かったのに加え、低温の日も多く、コースの雪が解けるかと思ったところに、ドカッと降り、解けるヒマのない悪循環にたたられた。

降雪の影響によるクローズの日数も増え、12月から2月までの3ヶ月で1,800人を超えるキャンセルを出す結果となった。その代わりコースの枯れ松の伐採、撤去が進み約200本の処理が終わった。古参メンバーからは「すっきりしている」「コースの感じが変わりすぎ」など様々の声が聞かれる。

伐採したあとの切り株は専用の機械で破碎し、そこに覆土しているが、フェアウエー内ではそこだけ違和感が残るが、芝の芽吹きと共に再生される。

北コース3番グリーンから4番のティーグラウンドエリアの間の松も処理された。

これまでは4番ティーグラウンドに移動して目に入る那須連山の景色が圧巻だったが、3番グリーンをおりると見通せるようになった。景色がパッと開けるインパクトは減ったが、今までより一歩手前から見渡せる開放感も悪くはない。

そこここで新しい景色と、フェアウエーの松がなくなったことで、新手のコースの攻め方が楽しめるようでもある。



開場記念祭コンペ4月10日開催。キャンセル待ちが続出。

塩原カントリークラブは4月14日で開場53周年を迎える。それを記念して10日(日)に恒例の開場記念祭が行われる。

新型コロナの感染対策のため、 HALFコンペだけのプログラムで、パーティーなどのイベントは自粛となる。参加申し込みは276人に達し、多くのキャンセル待ちとなっている。

キャンセル待ちが多いことについて、ゴルフクラブでは「シーズンインということもあるが、国体開催もあって塩カンにとっては記念すべき年で、それだけ開場記念を祝うお客様が多いということでしょう。ありがたいことです」と話している。



関東倶楽部対抗予選開催に太鼓判。関東連盟の視察完了。

5月に開催される関東倶楽部対抗県予選のコース視察が3月17日、関東ゴルフ連盟の担当者によって実施された。同予選は秋の国体の先駆けとなる大会で、国体と同じ南・北コースが使用される。

連盟担当者の視察では、ホールの配置、距離、コースの整備状況などをチェック、大きな問題点の指摘はなかった。これにより、5月19日の本番を待つだけとなった。

ボランティアに35人が応募。国体に向けてコース整備で協力。

国体の試合に使用される南、北コースを中心に、グリーン周りの雑草取りや目土入れなどのコース整備の軽作業について、今年もボランティア募集したところ、35人ほど応募があった。

4月18日の月曜日から毎週月曜日の午後2時から2時間、整備作業に当たる。作業着は各自が用意して、協力者には塩原ゴルフクラブから各回ごとに平日限定無料プレー券1枚が贈られる。

ゴルフが好きな方 男女問わず 健康を方 ゴルフ場軽作業 ボランティア募集

塩原カントリークラブでは綺麗なコースを目指し、より管理作業を進めておりますが、コース周りには多くの人手が必要となります。今回、ボランティアという形で会員や地元の皆様のご協力を賜りたく、下記の通り募集させていただきます。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

コース委員長 早坂 幸治
支那人 都築 久樹

作業内容 グリーン周りの雑草取り
コースの目土等の軽作業

募集期間 2022年3月7日～ (毎週月曜日)

作業時間 14:00～16:00 (コース作業)

※天候により作業中止の場合あり
※月曜日が祝日及びゴルフイベント開催の場合は当日休館となります

服 装 作業服は各自でご用意下さい

1回につき平日限定無料プレー券1枚進呈

申し込み・お問合せ 担当 都築 (ツツキ)
塩原カントリークラブ (代表) 0287-35-2211
FAX 0287-35-3503

塩原カントリークラブの正会員募集。「いちご一会とちぎ国体」開催を記念して。

塩原ゴルフクラブでは9月30日までの期間限定で、入会金17万円(消費税込み)で正会員を募集している。正会員権は通常25万円で譲渡しているが、国体開催を記念してサービス価格にしている。会員の紹介、ゴルフクラブの推薦を受けて、正会員入会申込書に必要事項を記入して申し込めば、入会審査のうえ入金と同時に「プレー券証書」が発行され、会員資格が得られる。

2022 いちご一会とちぎ国体開催記念 塩原カントリークラブ正会員募集要項

《合 格 期》 個人正会員 (入会金のみのプレー券)
《合 格 内 容》 正会員 50歳未満(年齢制限あり)

170,000円 (消費税含む)

《特別募集期間》 令和3年11月1日～令和4年9月30日
《年 会 費》 27,500円 (消費税含む)

《ご入会資格》 1. 会費納付のご都合がゴルフ場の運営に支障がある方
2. 当ゴルフクラブ「入会審査」資格基準に適合する方。
※念のため御留意申し上げる場合がございますので予めご了承下さい。
《ご入会申込書》 1. 塩原カントリークラブ正会員入会申込書に必要事項をご記入の上、ご提出下さい。

《募集要項》 ① 会員入会申込書(誓約書を含む)……………1通
② 用紙説明書……………1通
③ 保証書……………1通
④ 写真(5.5cm)……………2枚
⑤ カンセルカード・サインアップ申込書……………1枚

2. 入会審査
3. 入会許可された方は「入会決定通知書」を発送しますので、所定の納付金をお振込み下さい。
4. 入会承認された後、「プレー券証書」を送付致します。
※会員としての資格はご入金時を要します。

《お申込み・お問合せ先》

塩原カントリークラブ
株式会社塩原ゴルフクラブ
〒329-2504
栃木県那須郡塩原町1-1-8
TEL : 0287-35-2211 (F)
FAX : 0287-35-3503
Mail : info@shiobara-cc.com
HP : www.shiobara-cc.com



塩原カントリークラブ！攻略編！！【中コース】 — 中里 鉄也プロ —

☆中コース3番☆



【コース解説】

真っ直ぐで緩やかな打ち下ろしのミドルホール

【中里プロからのアドバイス】

- 1 打目は勇気を持ってバンカーを嫌がらずフェアウェイ左端にアドレスをとりたい。
- 2 打目はグリーン奥にバンカーが有り、グリーン手前から奥に傾斜が有る為小さめのクラブで攻めたい。

次回は、中コース4番を紹介します!!





那須の小天狗—小針春芳伝—⑭

井上 安正

28歳で那須ゴルフ倶楽部に復帰した小針春芳は、レギュラーのトーナメントを舞台に戦うこと17年間。この間、主な戦績は日本オープン、関東オープン、関東プロで優勝各二回。優勝こそなかったが、カナダカップなど海外遠征でも、ゴルフファンの期待を裏切ることはなかった。

もちろん、試合のない日には、特別な事情がない限り、那須ゴルフ倶楽部での所属プロとしての仕事に精励した。那須ゴルフ倶楽部の松井謙二理事長は1972(昭和47)年の入会だから、小針との付き合いは、40年を超えた。小針の人柄について、「あの実績がありながら、謙虚そのものでした。黙々と練習に取り組み、メンバーからのレッスンの求めに応じ、好物のたばこをくゆらす。それだけで存在感がありました」と言う。

那須ゴルフ倶楽部の開場メンバーの多くは周辺に別荘を持ち、家族連れでゴルフ場に来て、父親同士がコースに出て、奥さんと子供はクラブハウスやその周りで遊んで時間を過ごすという人が多かった。エチケットには厳しかったが、家族的な雰囲気があふれていた。古参メンバーの熊野耕太郎は両親ともメンバーで、両親がプレーしている間、妹とよくプロ室の周りで遊びながら、両親のコースアウトを待った。熊野はその頃の針について、「折れてしまったクラブのシャフトを針金などでつなぎ、それでボールを転がさせて遊んでくれました」という。若きプロのひとつの安息を兼ねていたのかも知れない。

小針はカラミティー・ジェーンの後、やはり「L」字型パターの「ウイルソン8813」を愛用していた。1番ホールティーグラウンドの手前に練習グリーンがあり、小針がパットの練習を始めたのを横目にスタートし、9番をホールアウトして気付いたら、小針がまだパット続けていた。そんな光景は日常茶飯事だった。

1番ホールはゆるい打ち下ろしで、よく風が巻き上げている。若い頃の松井理事長が「今日は相当なアゲインストだね」とパットを練習中の小針に声をかけると、「いい風じゃないですか。風に乗せてやれば飛びますよ。飛行機と同じですよ」と言い返してきた。さらりと言っているのが小針の流儀だった。

小針はよほどのことがない限り、クラブハウスに足を踏み入れることはなかった。ましてや、レストランへはいくらメンバーやレッスン相手に誘われても断った。「私はゴルフのお付き合いだけですから」と、それは徹底していた。かといって、レッスンでよそよそしくすることもなかった。誠実にして謙虚、そして高ぶることなく。小針の人間性や立ち居振る舞いは、メンバーの敬意を集めた。松井理事長は「何によせても尊敬に値する人でした」と言う。

熊野がラウンドレッスンで技術的なこととは別にして、よく言われたのは「ラウンドの途中では、セーターを着たり脱いだりしないように。それをすると、スイングが微妙に狂ってしまうから」というのが理由だった。熊野より2つ年上で83歳の姉・喜子は「いっぱい鉛が張られていたL字パターが忘れられない」という。そして、「『自分が打つ番が来るまでティーアップはしないように』と口癖のように言われた。ティーアップから構えて打つまでが、ひとつの動作だからというのがそのわけでした」と、なつかしそうに離す。確かにアマチュアの中には、心がはやるのか、前の打者が打つ前から、自分のボールをティーアップして待つ人がいる。マナーにかなわないばかりでなく、「自分のリズムを途切れさせないように」が小針の教えだった。



この前の東京オリンピックが開かれた頃までだろうか、グリーンに乗ったボールのマーカ―に、3ヶ位に切った赤い毛糸が使われていた。今では、ゴルフ場のロゴマークを入れたプラスチック製のマーカ―が用意されているし、ゴルフ用品メーカーの独自デザインのコイン風のもの市販されている。当時はゴルフ場のフロントやキャディーマスター室には、小箱にいれられた毛糸が置かれていた。

自分が必要と思う分だけこれをお願い受けて、スタートホールに向かった。男性はズボンの折り返しに入れ、女性はグローブの袖口を折り返して入れていた。風で吹き飛ばされそうだが、繊維が芝に巻きついてびくとしなかった。小針は色弱だったから、赤色だと見にくいとため、黄色の毛糸を自前で用意していた。小針の色弱は至近距離の時は別にして、離れれば離れるほど緑と赤が識別出来なくなった。グリーンに立っている旗が赤だけの場合は、識別に窮したが、旗には必ず白色で線やコースロゴがあしらわれており問題はなかった。

小針がシニアの声を聞いたころだったろうか、那須ゴルフ倶楽部はクラブハウスの隣に、木造の一軒家を建てた。これを、副支配人用の社宅として、小針に副支配人になって使ってもらうことにした。当時の理事長がそれを告げた時、小針は言下に断った。

社宅といっても、六畳二間に台所と風呂がついた程度の質素な作りだった。奥さんと子供二人と家族四人で暮らしてもらえればいい。小針の功労に応えておきたいという、倶楽部の総意だったが、小針はすぐには受けなかった。理事長らは「副支配人は名前だけでいい。これまで通りゴルフに打ち込んでもらいたい」と説得した。小針は「お申し出はとても嬉しい。でも、私の仕事はゴルフをやることですから」と応じなかった。しかし、倶楽部の役員に総がかりで説き伏せられ、家族とその社宅に住むことになった。

小針は那須ゴルフ倶楽部がクローズとなる11月から、毎年、霞ヶ関カンツリー倶楽部での修業に出掛けていたが、それだけではなかった。週1回ほどの出張レッスンもこなしていたことは余り知られていない。

東京・銀座の交詢社。福沢諭吉が1880(明治13)年に設立した、日本で初めての会員制社交クラブである。関東大震災で全壊し1929(昭和4)年、銀座6丁目のすずらん通りに面し、西五番街と交詢社通りに囲まれた一帯に、交詢ビルが再建された。クラブの専用スペースにはコテージ風の小食堂、バー、ビリヤード場が備えられ、1932年(昭和7)年には、インドアのゴルフ練習場と講堂が増築された。今の交詢社ビルは、2004(平成16)年に建て替えられたものである。

交詢社は慶応大OBであることが原則で、会員が同行しなければビルに立ち入ることが出来なかった。インドア練習場の開設は那須ゴルフ倶楽部の開場より4年早い。那須ゴルフ倶楽部や霞ヶ関カンツリー倶楽部のメンバーに慶応OBが多く、小針は乞われてレッスンを受け持つことになったと思われる。それは、戦後、那須ゴルフ倶楽部に復帰し、関東プロに初優勝した後のことだった。小針の人脈が広がり、信頼を勝ち得ていたかを裏付けている。

(つづく)



編集後記

新型コロナ感染拡大によるまんえん防止措置がやっと解除されるかと思ったら、あの東日本大震災の慰霊の思いを新たにしたばかりの福島、宮城を中心にまた大きな地震に見舞われた。震源は11年前とほぼ同じ。深さが深かったため、津波が小さくて済んだという。とはいえ、死傷者は100人を超え、何より17両編成の東北新幹線の16両が脱線した。

新幹線の1編成のうちで、これだけの車両が脱線したのは初めてで、特撮映画のワンシーンを思い出して背筋が凍りつく思いだった。JRには大動脈の早期復旧とともに脱線のメカニズムの解明を願いたい。東北新幹線は当面、東京ー那須塩原間しか行けなくなるが、どうして脱線につながったかが明示されなければ、安全、安心が図られることにはなるまい。

世界に目を転じれば、ロシアがウクライナに武力侵攻し、人びとの命と日常を蹂躪した。プーチン大統領の個人的世界観がもたらした所業とされるが、ロシアは国際社会から孤立を深める一方である。

ウイズコロナではあってもいいが、落ち着いた日常生活はいつになったら訪れるのだろうか。「いちご一会国体」のころには、秋空のもとマスクなしでクラブが振れることを祈らずにはいられない。

井上 安正